

# 2018年3月期 決算説明会

ウシオ電機株式会社

2018年5月10日

<免責事項>本資料で記述されている将来の当社業績に関する見通しは、現時点で入手可能な情報を基に当社が判断した予想です。従いまして、様々な要因の変化により、実際の業績は記述されている将来見通しとは大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おき下さい。

\*本資料の記載は、切捨てによる億円単位で表記しております。

# USHIO

## 2018年3月期は **増収増益決算**

対公表値は売上高で未達も、営業利益は達成

## 2019年3月期は **増収増益を予想**

中期経営計画2年目の目標 営業利益125億円 を予想

中期経営計画 最終年度 (2020年3月期)

達成目標 (営業利益150億円) に **変更なし**

- I. 2017年度 通期業績概況
- II. 2018年度 業績予想
- III. 中期経営計画
- IV. 参考資料

## 決算発表のポイント

連結売上高は前年同期比0.4%増の1,734億円  
連結営業利益は前年同期比18.0%増の101億円となり**増収増益決算**

- 営業利益は、公表値（2017年5月11日発表）を上回り着地 -

**売上高** : 1,734億円（前年比+6億円、0.4%増）

- ・ 半導体／電子部品及びFPD関連市場は好調に推移し、UVランプ及び光学装置が増収

**営業利益** : 101億円（前年比+15億円、18.0%増）

- ・ 光学装置の収益性改善および前期実施の早期希望退職により増益

親会社株主に帰属する

**当期純利益** : 110億円（前年比+39億円、56.2%増）

- ・ 特別利益（124億円）：厚生年金基金代行返上益（60億円）、投資有価証券売却益（59億円）
- ・ 法人税等調整額（▲77億円）：米国税制改正法の成立等に伴う繰延税金資産の減少等

※為替平均レート（FY17）：1USドル=111円

# 売上高・損益

単位：億円	FY16	FY17	前年同期比		
			増減	%	
売上高	1,728	1,734	+6	+0.4	
営業利益	86	101	+15	+18.0	
営業利益率(%)	5.0	5.9	+0.9P	-	
経常利益	110	120	+10	+9.5	
親会社株主に帰属する 当期純利益	70	110	+39	+56.2	
EPS (円)	55.06	86.11	+31.05	+56.4	
ROE (%)	3.3	5.1	+1.8P	-	
為替レート (円)	USD	109	111	+2	-
	EUR	119	129	+10	-

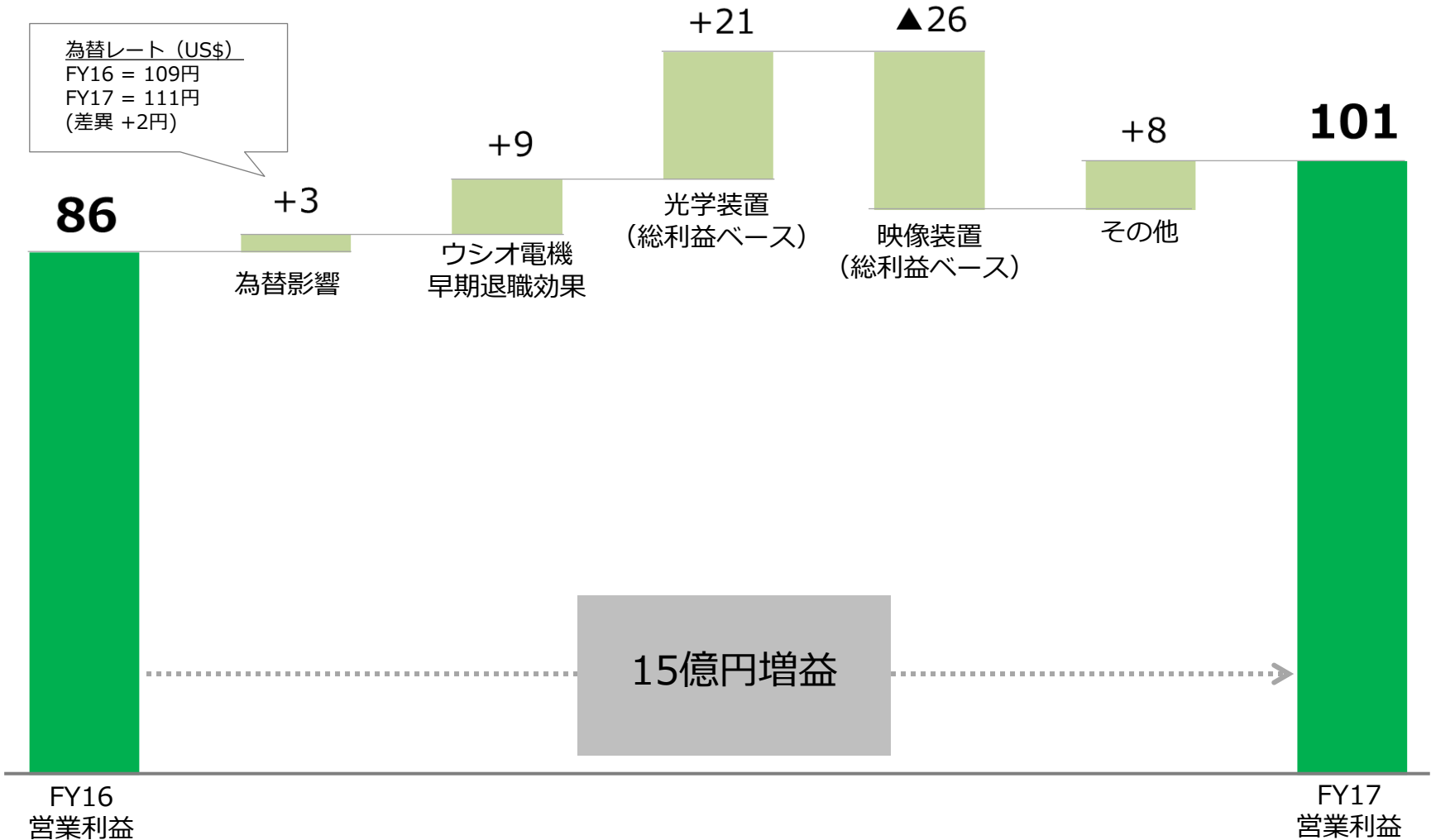
為替感応度：1円変動による影響額（通期）

	売上高	営業利益
対USD	約10億円	約1.5億円

# 前年同期比 営業利益増減分析

単位：億円

為替レート (US\$)  
FY16 = 109円  
FY17 = 111円  
(差異 +2円)



注：「ウシオ電機早期退職効果」～「その他」の要因は、「為替影響」を除いた金額。

注：「光学装置（総利益ベース）」及び「映像装置（総利益ベース）」は、「ウシオ電機早期退職効果」を除いた金額。

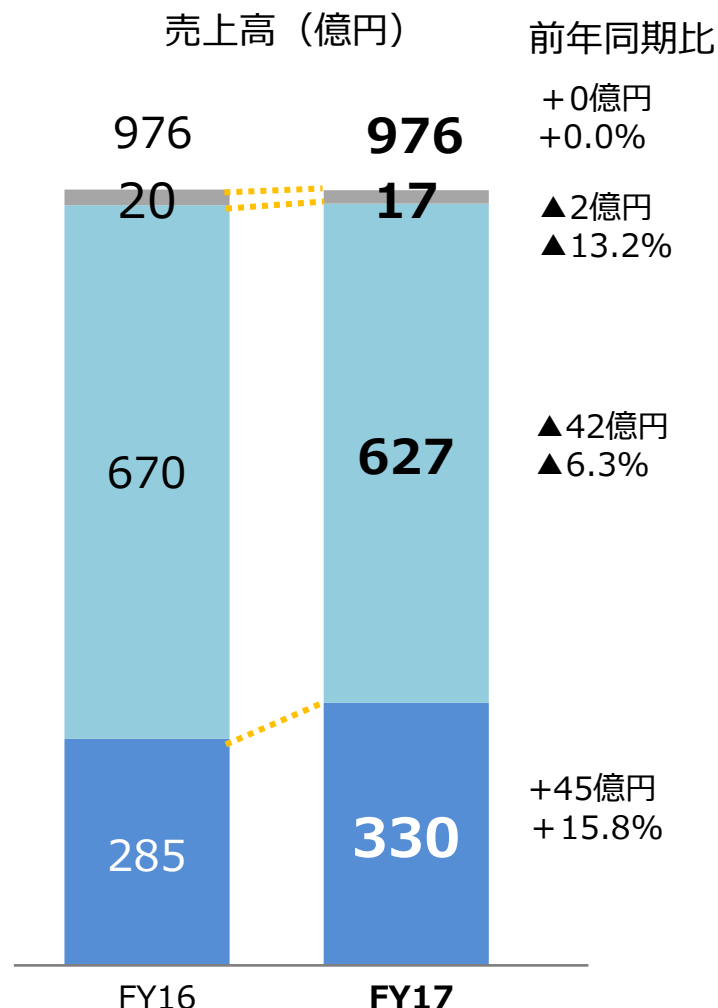
# セグメント別 売上高、営業利益、営業利益率

単位：億円		FY16	FY17	前年同期比	
				増減	%
装置事業	売上高	976	976	+0	+0.0
	営業利益	0	▲5	▲5	-
	営業利益率 (%)	0.1	▲0.5	▲0.6P	-
光源事業	売上高	719	724	+5	+0.7
	営業利益	81	104	+22	+28.1
	営業利益率 (%)	11.3	14.4	+3.1P	-
その他	売上高	32	34	+1	+4.0
	営業利益	0	1	+0	+208.7
	営業利益率 (%)	1.3	3.8	+2.5P	-
全社・消去	営業利益	3	1	▲2	▲64.8

注：売上高は外部顧客への売上高を記載、営業利益率は外部顧客売上高に対する営業利益率

# セグメント別 概況（1）

## ■ 装置事業



注：売上高は、外部顧客への売上高を記載

## 通期概況

### 映像装置

#### シネマ ▲7%

- ・ 中国で固体光源（蛍光体レーザー）プロジェクター拡大により競争激化

#### 一般映像 ▲6%

- ・ 一般映像用プロジェクターの競争激化

### 光学装置

#### UV装置 +23%

- ・ M-SAP向け直描式露光装置が好調
- ・ 電子デバイス向け投影露光装置が増加

#### キュア装置 ▲9%

- ・ 中小型液晶関連装置の需要が低調に推移

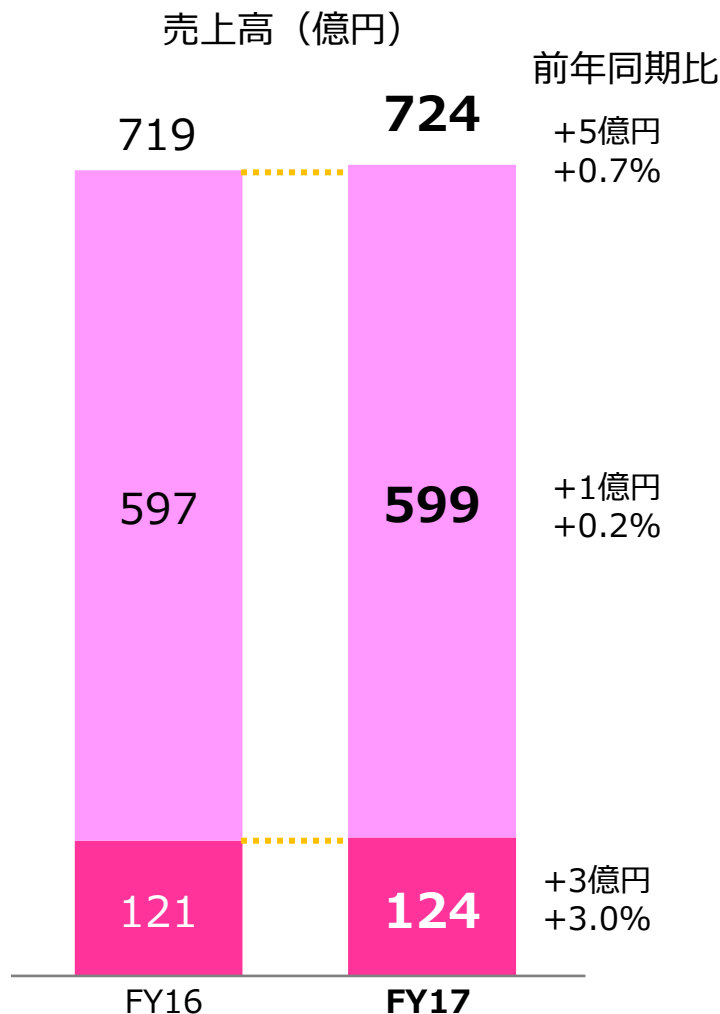
### 照明装置他

- ・ 前期に大型案件あり



# セグメント別 概況 (2)

## 光源事業



注：売上高は、外部顧客への売上高を記載

## 通期概況

### 放電ランプ

#### UVランプ° + 8%

- ・半導体、FPD関連 (G10.5、OLED) の設備投資拡大

#### シネマ用ランプ° ▲ 2%

- ・中国で固体光源化拡大によりランプ需要減少

#### データプロジェクター用ランプ° + 1%

- ・当社ランプ採用のユーザーの新製品販売好調

### ハロゲンランプ

#### OA用ランプ° + 4%

- ・高付加価値な環境対応製品の販売が貢献

#### 照明用ランプ° ▲ 7%

- ・固体光源化が拡大し、ランプ需要が減少

# 通期公表値・実績比較

単位：億円		FY17 公表値	FY17 実績	差異	達成率(%)
売上高		1,800	1,734	▲65	96.4
営業利益		100	101	+1	101.5
営業利益率 (%)		5.6	5.9	+0.3P	-
経常利益		115	120	+5	104.8
親会社株主に帰属する 当期純利益		110	110	+0	100.0
EPS (円)		86.10	86.11	+0.01	100.0
配当 (円)		26	26	-	-
配当性向 (%)		30.3	30.2	▲0.1P	-
設備投資額		80	50	▲29	63.2
減価償却費		70	67	▲2	97.0
研究開発費		105	106	+1	101.7
為替レート (円)	USD	110	111	+1	-
	EUR	115	129	+14	-

# サブセグメント別売上高 計画値・実績比較

単位：億円

			FY17 実績	通期計画 (10.30公表)		達成率 (%)	
				期初計画	10.30修正	対期初計画	対10.30修正
売上高	装置事業	映像装置	627	725	675	86.6	93.0
		光学装置	330	275	325	120.4	101.8
		照明装置他	17	25	—	70.7	—
		小計	976	1,025	—	95.3	—
	光源事業	放電ランプ	599	625	—	95.9	—
		ハロゲンランプ	124	120	—	103.9	—
		小計	724	745	—	97.2	—
	その他	産業機械他	34	30	—	114.3	—
	合計		1,734	1,800	—	96.4	—
	営業利益			101	100	—	101.5

- 
- I. 2017年度 通期業績概況
  - II. 2018年度 業績予想
  - III. 中期経営計画
  - IV. 参考資料

# 業績予想

単位：億円		FY17 実績	FY18 予想	前年同期比	
				増減	%
売上高		1,734	1,800	+65	+3.7
営業利益		101	125	+23	+23.1
営業利益率 (%)		5.9	6.9	+1.0P	-
経常利益		120	140	+19	+16.2
親会社株主に帰属する 当期純利益		110	115	+4	+4.5
EPS (円)		86.11	90.01	+3.90	+4.5
ROE (%)		5.1	5.0	▲0.1P	-
配当 (円)		26	30	+4	-
配当性向 (%)		30.2	33.3	+3.1P	-
為替レート(円)	USD	111	105	▲6	-
	EUR	129	125	▲4	-

# サブセグメント別 事業予想

## 装置事業 +1.4%

映像装置  
▲4.4%

- ・中国を中心とした映画館新設数は鈍化
- ・固体光源化の市場ニーズに適合した競争力あるRGBレーザープロジェクターの販売を拡大
- ・高成長が期待できるエンターテインメント分野に注力し販売を強化
- ・抜本的な収益構造改革により収益性を改善

光学装置  
+13.3%

- ・プリント基板及びM-SAP向け直描式露光装置は引き続き堅調に推移見込み
- ・スマートフォンに搭載する電子部品の小型化、高機能化を背景とした投影露光装置は拡大
- ・IoTの拡大や5Gを背景としたデータセンター向け先端パッケージング分野の販売拡大
- ・光配向装置は、スマートフォンの高精細化ニーズが引き続きあるものの販売台数は微減

## 光源事業 +6.3%

放電ランプ  
(固体光源含む)  
+7.6%

- ・UVランプは、半導体やFPDの設備投資拡大を背景に、引き続き好調に推移見込み
- ・シネマ用ランプは、引き続き中国での固体光源化による競争激化により微減
- ・データプロジェクター用ランプは、前期の新規採用の貢献が一服することから微減
- ・固体光源は、プロジェクター及び印刷用途での販売が拡大

ハロゲンランプ  
+0.2%

- ・OA用途は需要減少傾向も、高付加価値ランプの販売割合が増加し売上は横ばいの見込み

※増減率は、FY17売上高実績比

# サブセグメント別 売上高予想

単位：億円

		FY17 実績	FY18 予想	前年同期比		
				増減	%	
売上高	装置事業	映像装置	627	600	▲27	▲4.4
		光学装置	330	375	+44	+13.3
		照明装置他	17	15	▲2	▲15.2
		小計	976	990	+13	+1.4
	光源事業	放電ランプ	599	645	+45	+7.6
		ハロゲンランプ	124	125	+0	+0.2
		小計	724	770	+45	+6.3
	その他	産業機械他	34	40	+5	+16.7
	合計		1,734	1,800	+65	+3.7

---

I. 2017年度 通期業績概況

II. 2018年度 業績予想

**III. 中期経営計画**

IV. 参考資料



## 1. 中期経営計画について

- ・ 中期経営計画（計数）について
- ・ 2017年度（1年目）の振り返り
- ・ 持続的成長に向けた 収益構造改革 と 事業戦略

## 2. 「光企業としての飛躍」に向けて

---

## 1. 中期経営計画について

- ・ 中期経営計画（計数）について
- ・ 2017年度（1年目）の振り返り
- ・ 持続的成長に向けた 収益構造改革 と 事業戦略

## 2. 「光企業としての飛躍」に向けて

# 中期経営計画 計数目標について

昨年公表ベースを**維持**

重要業績評価指標 (KPI)	中計 1 年目	中計 2 年目	中計 3 年目
	FY17 実績	FY18 計画	FY19 計画
<b>営業利益 (億円)</b>	101	125	150
営業利益率 (%)	5.9	$\frac{6.9}{6.6}$	$\frac{7.9}{7.5}$

※参考数値	FY17 実績	FY18 計画	FY19 計画
売上高 (億円)	1,734	$\frac{1,800}{1,900}$	$\frac{1,900}{2,000}$
ROE (%)	5.1	$\frac{5.0}{4.2}$	5.0以上

為替前提：1 USドル

@111円

@105円 ← @110円

@105円 ← @110円

---

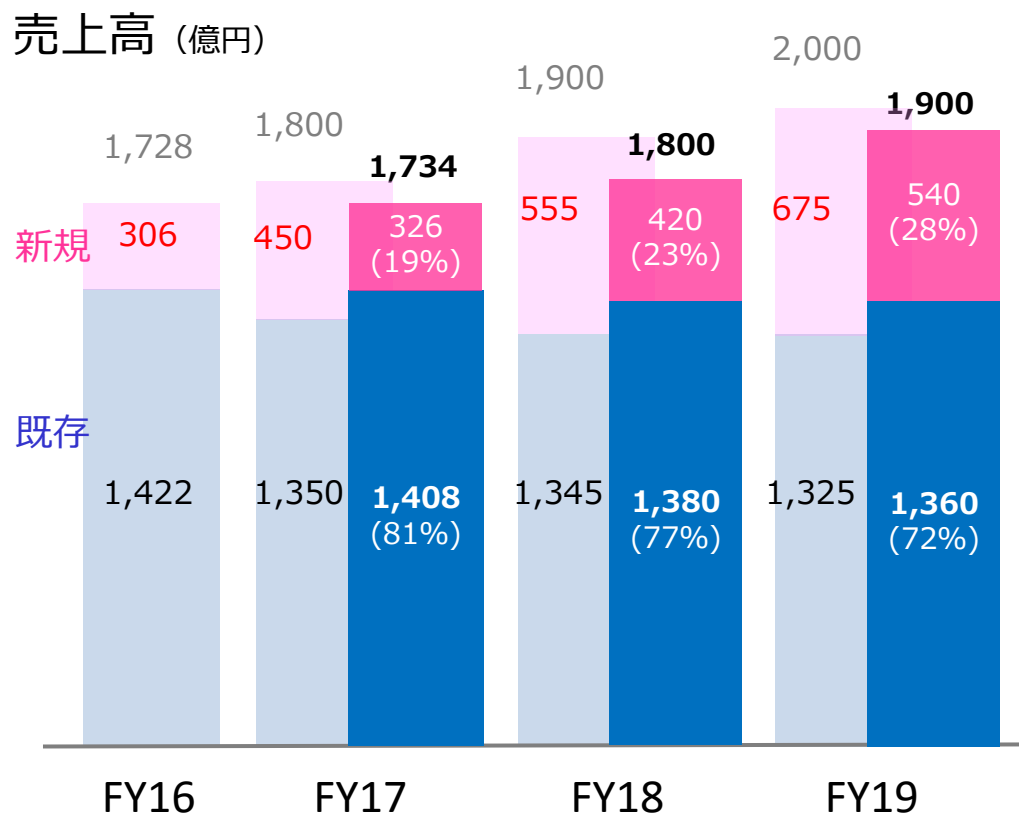
## 1. 中期経営計画について

- ・ 中期経営計画（計数）について
- ・ 2017年度（1年目）の振り返り
- ・ 持続的成長に向けた 収益構造改革 と 事業戦略

## 2. 「光企業としての飛躍」に向けて

# 2017年度（1年目）の振り返り

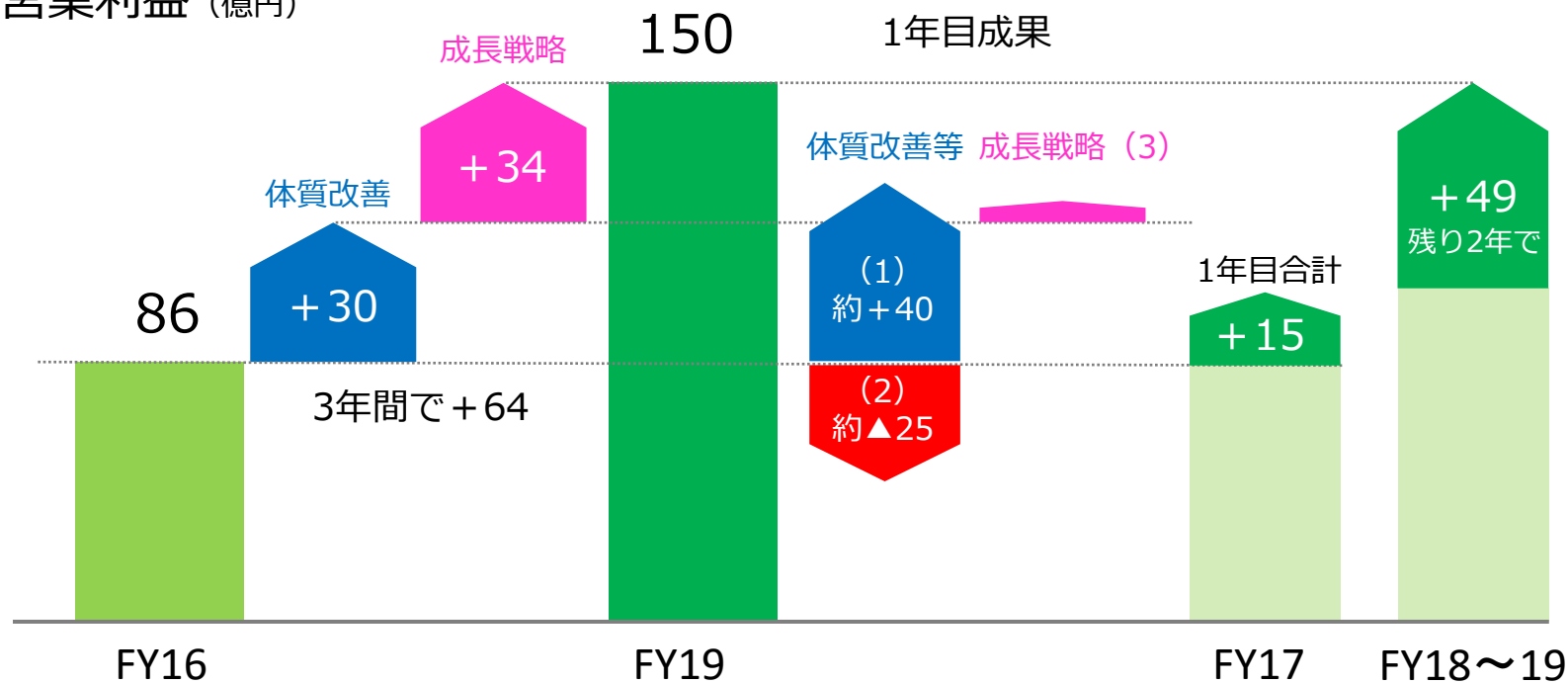
重点施策	計画以上	計画以下
① 既存事業の収益性の維持・改善	(1) 構造改革の進展	(2) 映像装置の収益低迷
② 新たな成長機会の追求	—	(3) スピード不足



# 2017年度（1年目）の振り返り

重点施策	計画以上	計画以下
① 既存事業の収益性の維持・改善	(1) 構造改革の進展	(2) 映像装置の収益低迷
② 新たな成長機会の追求	—	(3) スピード不足

## 営業利益（億円）



# 2017年度（1年目）の振り返り

重点施策	1年目の成果	今後（課題）
① 既存事業の 収益性の維持・改善	計画以上	
	(1) 収益構造改革の進展  装置事業（光学装置） 体質改善による <b>大幅な収益改善</b>  光源事業 <b>生産性向上・品質向上</b>	継続的な改善
② 新たな成長機会の追求  新規市場開拓・新規事業創出 シナジー重視のM & A	計画以下	
	(2) 装置事業（映像装置） <b>収益低迷</b>  (3) 新規の芽が出始めている >>> ビアメカニクス露光事業の買収 (装置事業 光学装置)	抜本的な収益構造改革 コア事業に注力し 「稼ぐ力」を高める  質、スピード向上

---

## 1. 中期経営計画について

- ・ 中期経営計画（計数）について
- ・ 2017年度（1年目）の振り返り
- ・ 持続的成長に向けた 収益構造改革 と 事業戦略

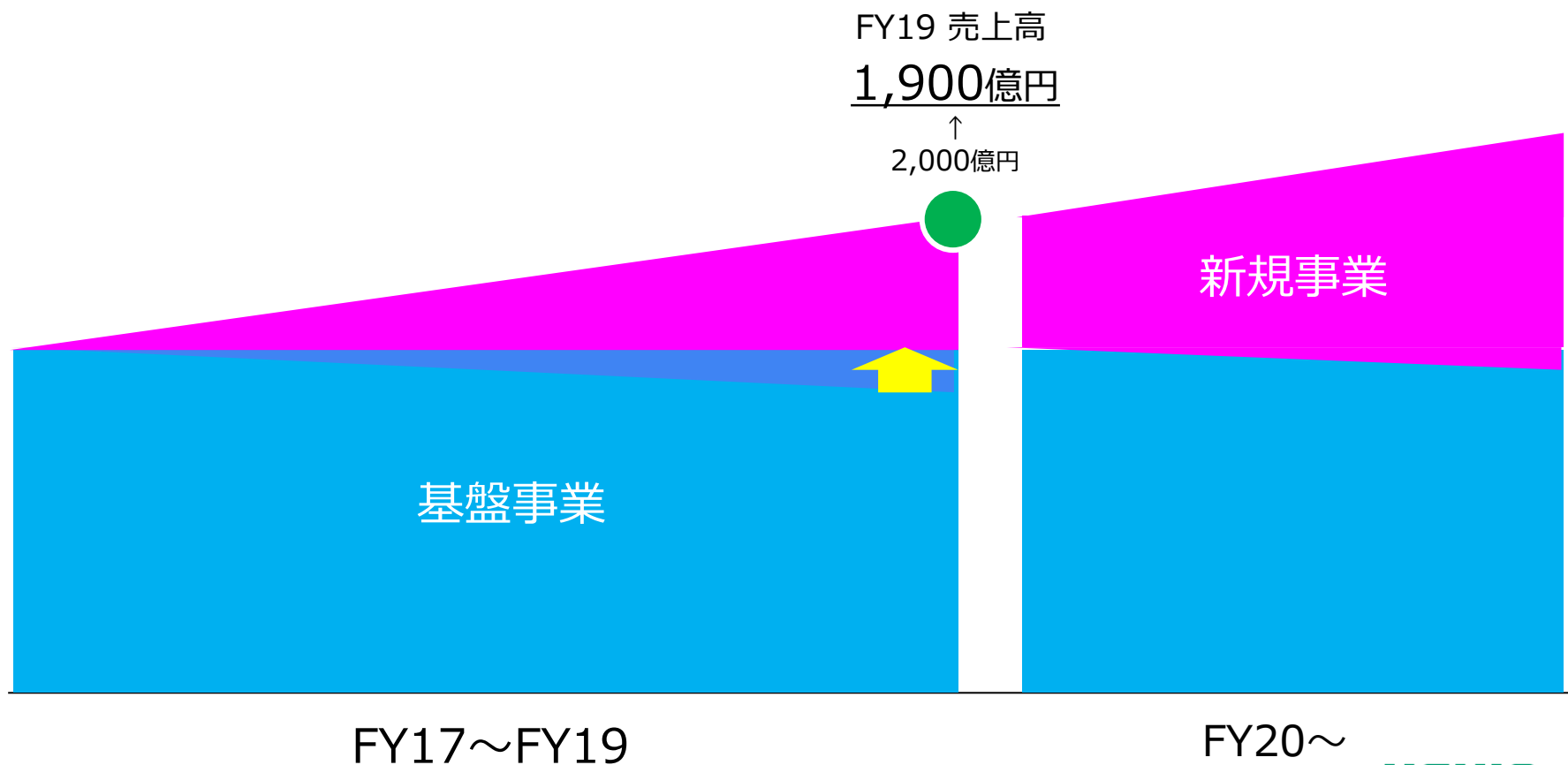
## 2. 「光企業としての飛躍」に向けて



# 持続的成長のイメージ（売上高）

## 中期経営計画

次なる飛躍への基礎固め → 「光企業」としての飛躍



# 収益構造改革（光源事業）

ウシオ電機（単体）光源事業：強固な品質と競争力確保への取り組み

品質向上  
バラツキ・かたより低減

モノづくり  
付加価値向上

目指す姿

品質向上

一人あたり  
労働生産性向上

圧倒的な競争力

FY17の成果：不良率低減、リードタイム短縮

IT化 × ロボット（FA）化

ペーパーレス化、データのデジタル化、リアルタイムな見える化

“人”によるバラツキやミスの低減  
（人による付加価値工程を除き製造工程のFA化を推進）

他の製造ライン  
海外生産工場へ拡大

FY18以降

さらなる製造工程の革新

製品そのものの付加価値を大幅に拡大

高付加価値なプレミアムランプをラインナップ  
各市場におけるシェアを維持・拡大

# 収益構造改革（装置事業 光学装置）

ウシオ電機（単体）光学装置：体質改善による収益性改善への取り組み

## 問題意識

売上は拡大するも、利益が改善しない

Q：品質、C：コスト、D：納期の面で  
無理な受注が多い非効率な生産体制

改善策



## 利益重視

- ・ 適正価格での受注（収益性重視の受注）
- ・ 製品の標準化（製造コスト低減）

## 生産工程のスマート化

- ・ ファブライタ化（非効率な工程の外部活用）
- ・ 生産革新（工程の自動化・IT化）

## 成果（FY17）

対前期比：**利益が大幅に拡大**

（参考）

生産性改善を測る独自のKPI導入

$$\text{生産性} = \frac{\text{output (効果)}}{\text{resource (ヒト・モノ・ジカン)}}$$



生産性のFY17 実績は目標を達成

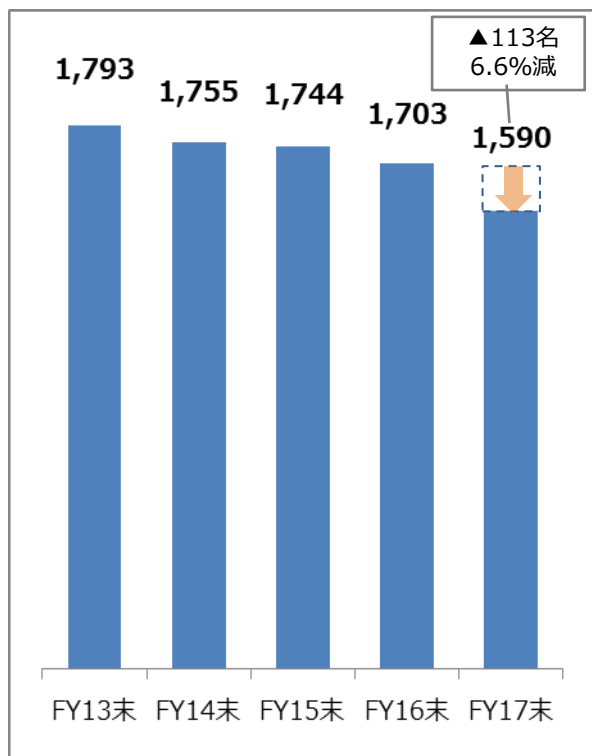
FY18以降は、適正価格での受注対象品を拡大  
製造工程の更なるスマート化を推進

# 収益構造改革

## ウシオ電機 (単体) 「稼ぐ力」は着実に向上

ウシオ電機 (単体)  
従業員数推移

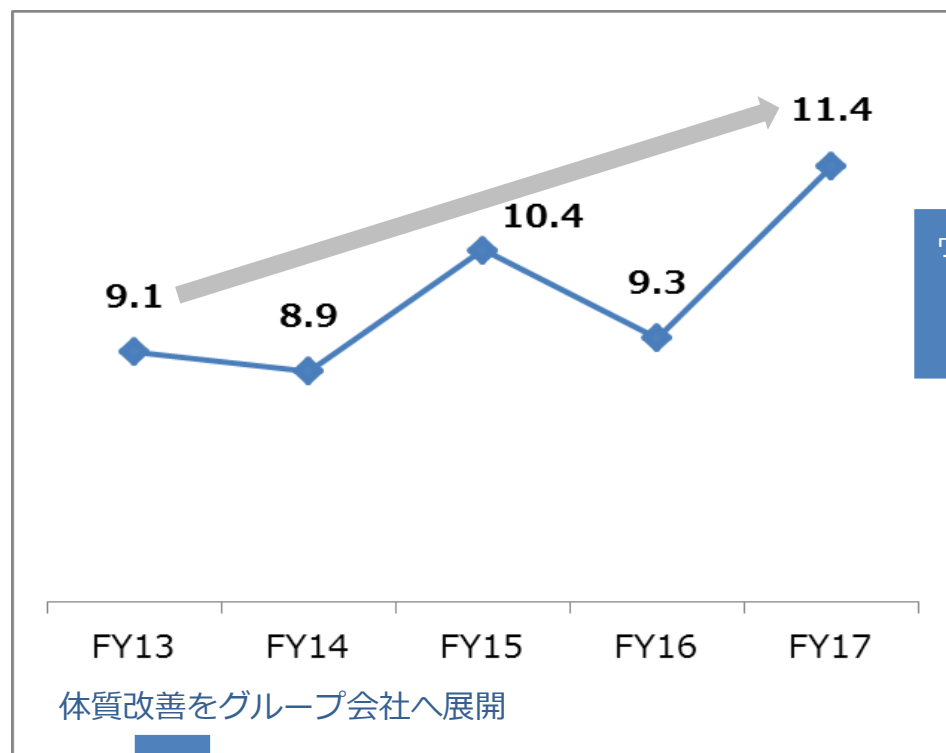
単位：人



1人当たり売上総利益

ウシオ電機 (単体)

単位：百万円



体質改善をグループ会社へ展開

グループ全体で「稼ぐ力」向上へ

# 収益構造改革（装置事業 映像装置）

## コア事業に注力し「稼ぐ力」を高める

### ハイエンドな映像技術を核とする分野

シネマで培ったハイエンドな映像技術を活かし、高成長が望める領域  
主にエンターテインメント分野  
大手テーマパークなど有力取引先との関係強化

### ハイエンドな映像技術を核とするコア事業

#### シネマ分野

シネマ市場に対し魅力的な製品を提供し続けること

映像関連の周辺事業

FY17 不採算事業の発生  
↓  
FY18（計画）  
不採算事業の整理・売却

FY17（反省）  
新製品の投入遅れ  
↓  
FY18（計画）  
競争力ある製品を  
他社に先んじて市場投入

（クリスティ）  
成長軌道回帰に向け  
固定費削減含む

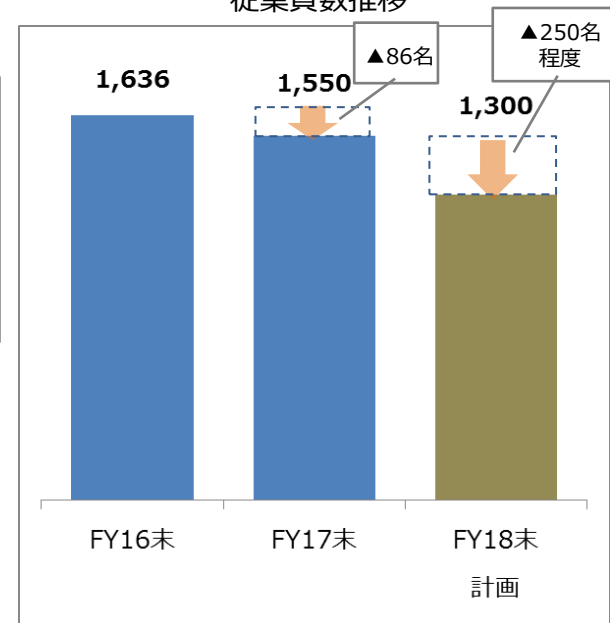
## 抜本的な収益構造改革 実行

1. 不採算事業の整理・売却
2. 抜本的な生産場所の見直し
3. 高付加価値製品の投入  
(2018年3月より)

大幅な  
固定費削減を  
スピード感もっ  
て実行

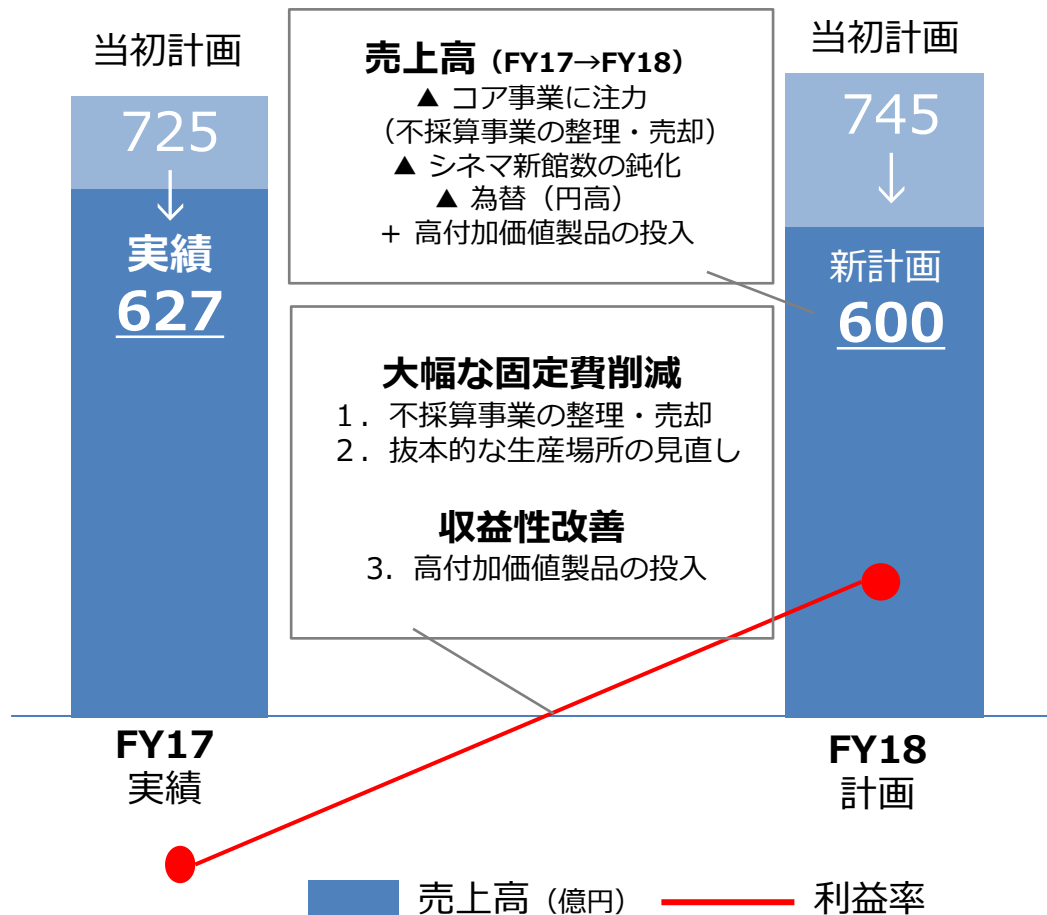
収益性改善  
将来の成長へ

クリスティ  
従業員数推移



# 収益構造改革（装置事業 映像装置）

## 映像装置の収益性変化 (FY17→FY18)



## 財務体質の改善

クリスティ  
**運転資本回転率悪化**



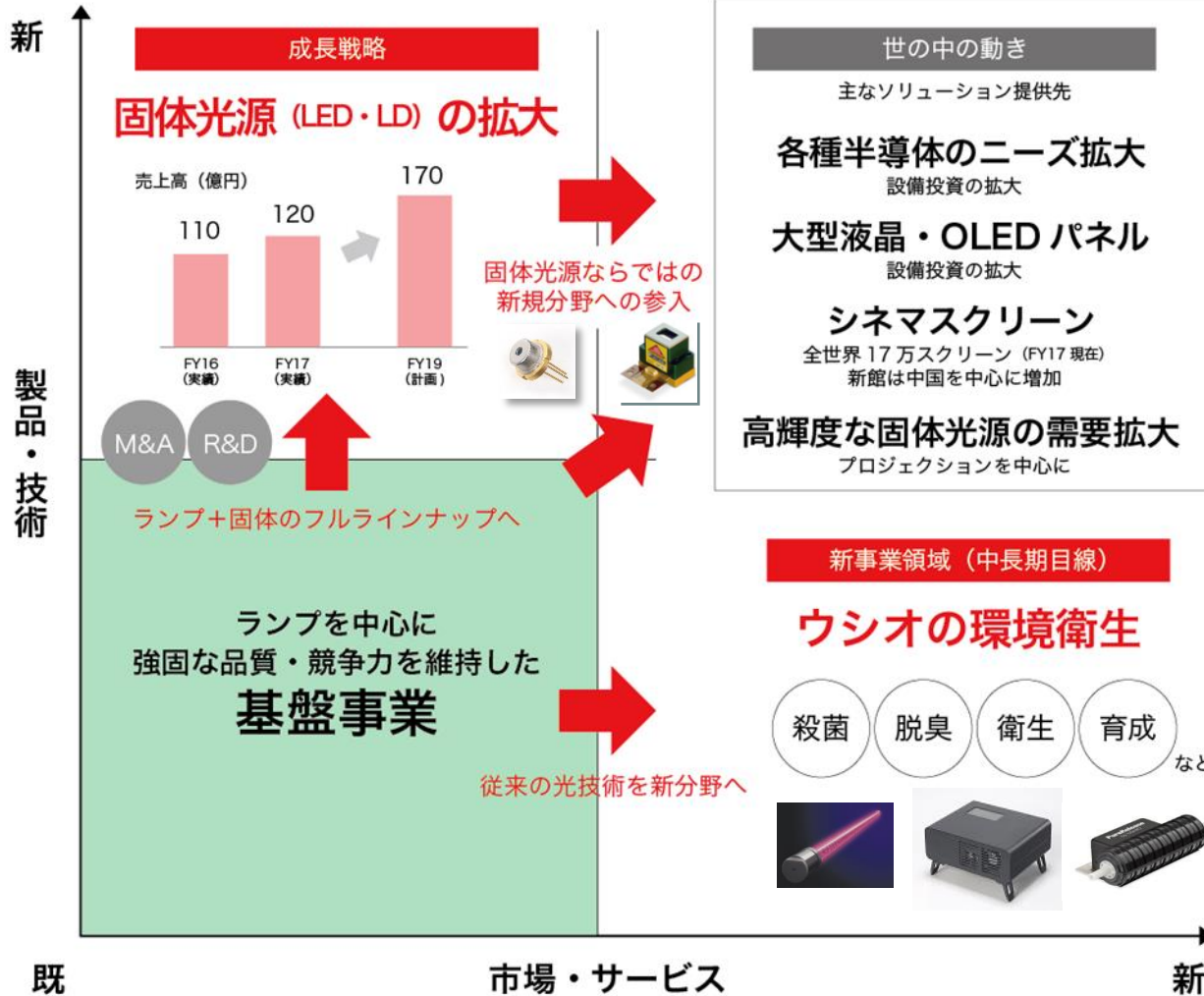
ウシオグループ全体  
運転資本回転率悪化の  
一要因

競合他社比較  
悪化の要因である「在庫」、「売掛金」等  
に対しKPIを設定し改善活動開始



経営重要課題として  
**抜本的な改善を進め  
収益性向上へ**

# 事業戦略 (光源事業)



**世の中の動き**  
主なソリューション提供先

各種半導体のニーズ拡大  
設備投資の拡大

大型液晶・OLED パネル  
設備投資の拡大

シネマスクリーン  
全世界 17 万スクリーン (FY17 現在)  
新館は中国を中心に増加

高輝度な固体光源の需要拡大  
プロジェクションを中心に

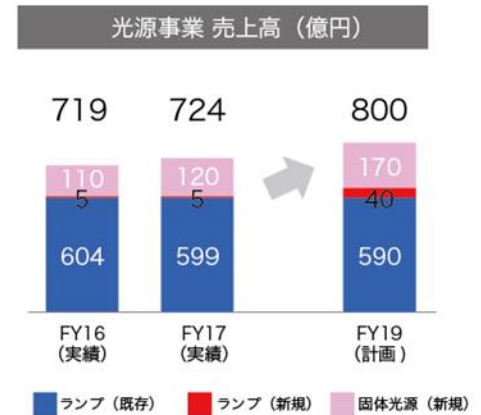
**社会のニーズ**

5G	IoT、AI
スマートフォン	自動車
ウェアラブル	8K テレビ
データセンター	スマート工場
3D、VR/AR	表現力
獨創性	リアルタイム
インタラクティブ	見える化

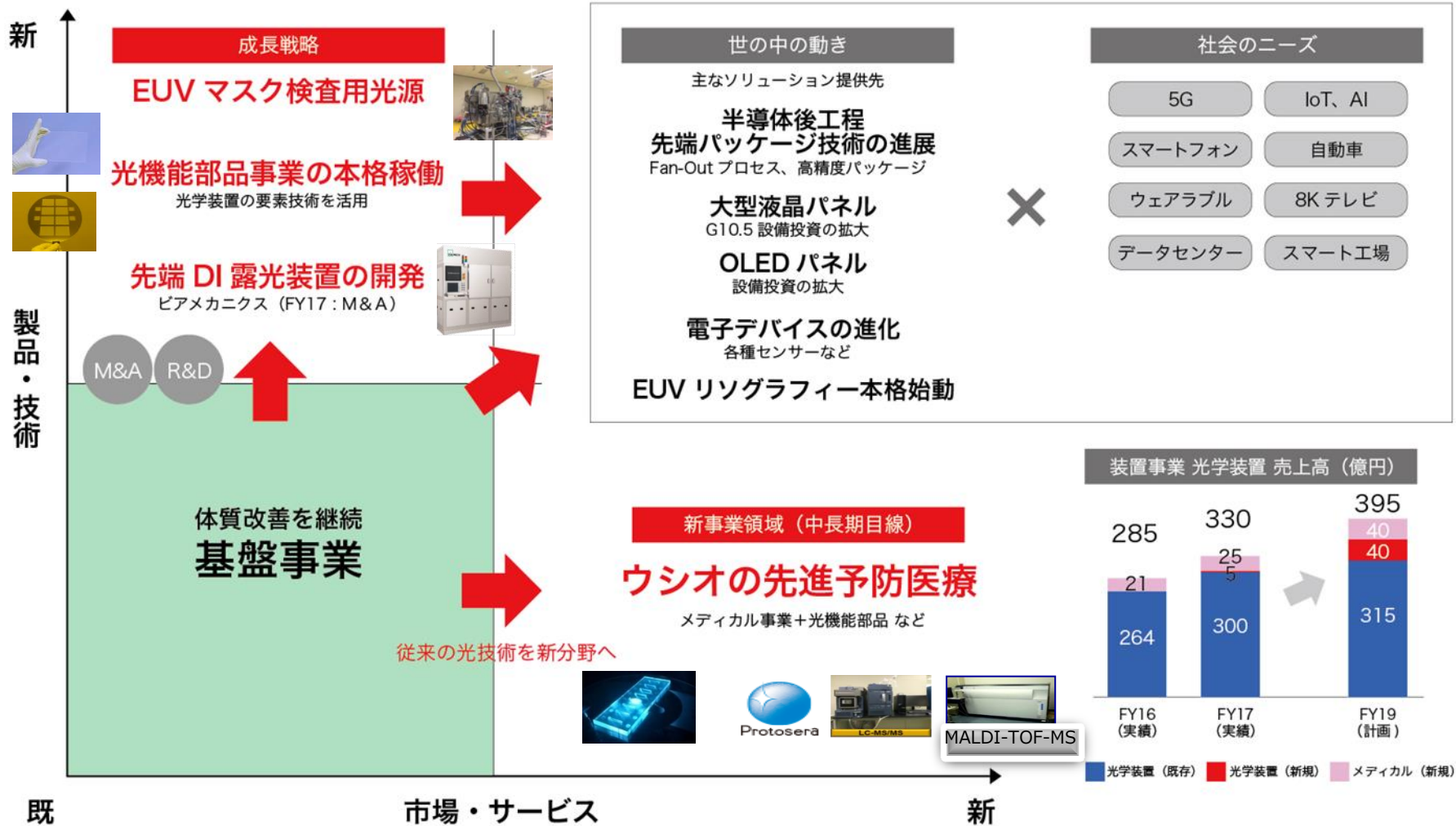
**新事業領域 (中長期目線)**

**ウシオの環境衛生**

殺菌 脱臭 衛生 育成 など

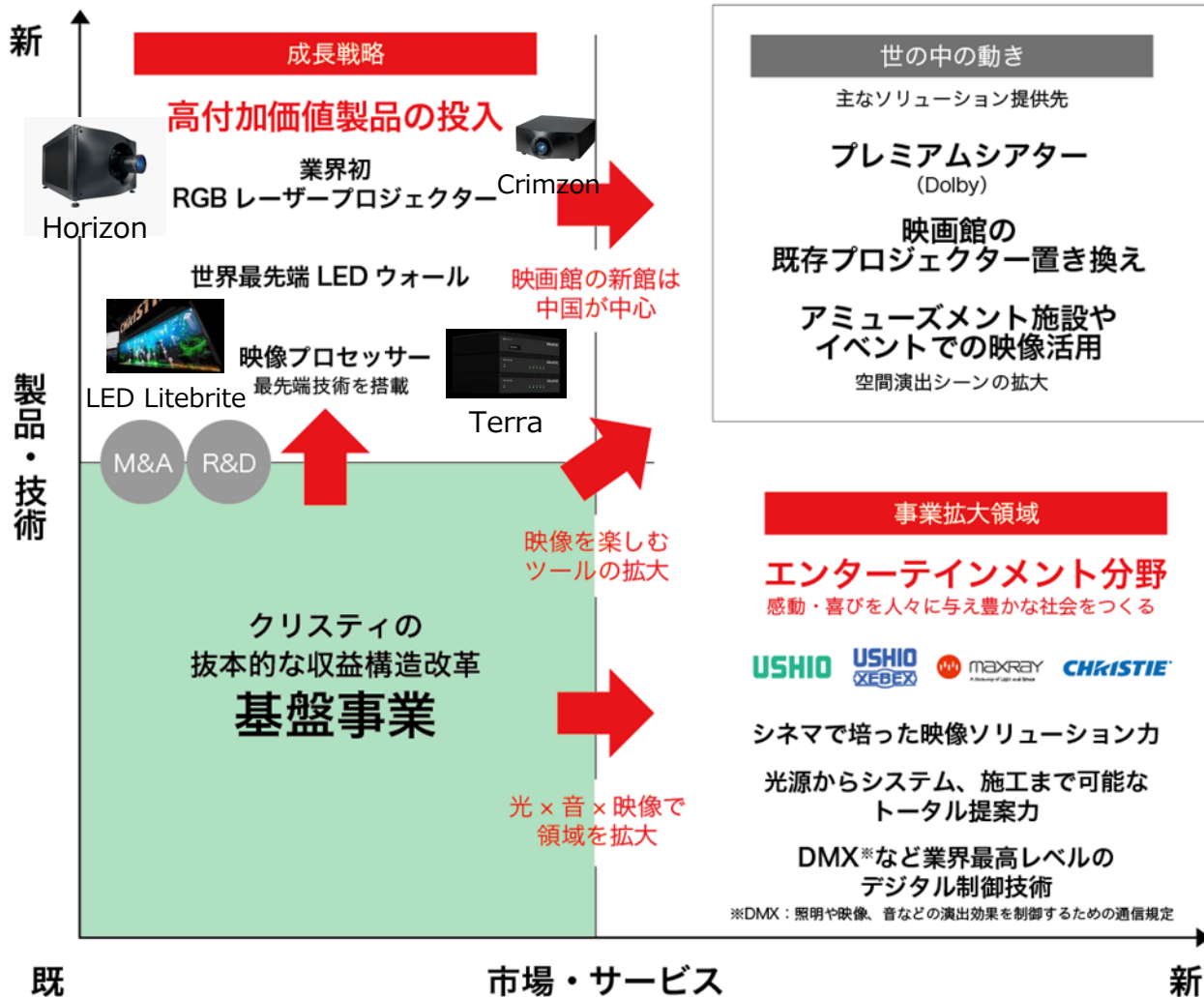


# 事業戦略（装置事業 光学装置）





# 事業戦略 (装置事業 映像装置)



世の中の動き	社会のニーズ
主なソリューション提供先 <b>プレミアムシアター</b> (Dolby) <b>映画館の既存プロジェクター置き換え</b> <b>アミューズメント施設やイベントでの映像活用</b> 空間演出シーンの拡大	3D、VR/AR 表現力 独創性 リアルタイム インタラクティブ 見える化

×

## 事業拡大領域

**エンターテインメント分野**  
 感動・喜びを人々に与え豊かな社会をつくる

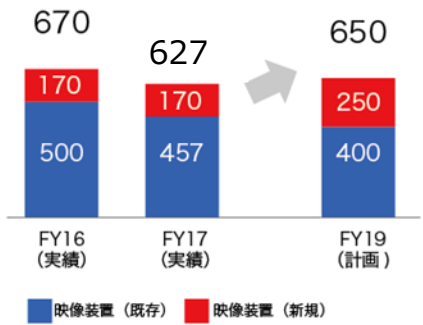


シネマで培った映像ソリューション力  
 光源からシステム、施工まで可能な  
 トータル提案力

DMX※など業界最高レベルの  
 デジタル制御技術

※DMX：照明や映像、音などの演出効果を制御するための通信規定

## 装置事業 映像装置 売上高 (億円)



---

## 1. 中期経営計画について

- ・ 中期経営計画（計数）について
- ・ 2017年度（1年目）の振り返り
- ・ 持続的成長に向けた 収益構造改革 と 事業戦略

## 2. 「光企業としての飛躍」に向けて

# ウシオの新たな価値創造領域

## 環境汚染の解決、食の安全など

空気・水をきれいに、感染を防止して、  
安心・安全な社会・環境をつくる

## 医療費高騰への対応、QOL\*向上など

※QOL = Quality of life  
人々が健康で豊かな社会をつくる

## 未来は「光」でおもしろくなる

強固な事業・光技術の両基盤を強みに、  
高付加価値な光ソリューションを提供する



### ①環境衛生（空気・水・ウィルス）

人体に無害な222nm紫外線による殺菌

※222nm紫外線は独占実施権保有（コロンビア大学との契約締結）

172nmオゾンによる空間殺菌・脱臭技術

リアルタイム流水殺菌技術



業界シェアNo.1  
水銀レスUVランプ



水銀レスランプ方式  
オゾナイザー



コンパクト  
リアクタ



照明型空間  
殺菌ユニット



コンパクト  
脱臭ユニット



オンサイト  
吸光度計

### ②先進予防医療（早期発見・早期治療）

バイオチップなど機能性部品の製造技術

早期スクリーニング検査技術

バイオマーカー探索技術



光機能部品



バイオマーカー事業

事業化加速に向け

R&D

M&A

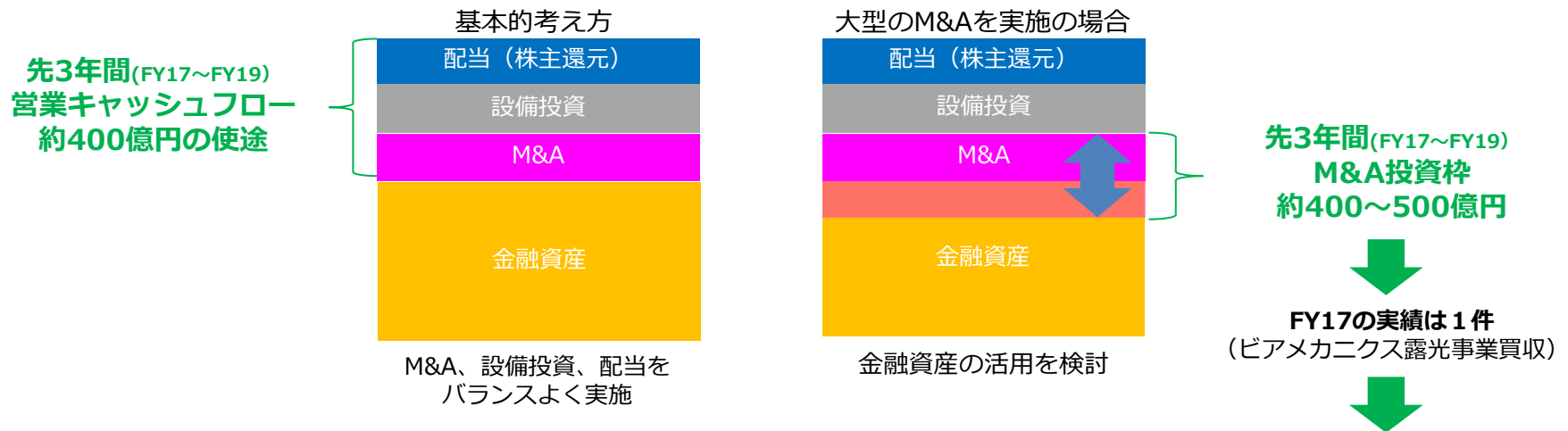
も。

## M&Aを今後の成長に重要な方策と位置づけ

“光”の新規市場開拓につながるなど、  
シナジー効果が十分見込めるM&A案件に対し、積極的に取り組む

大型M&Aに備え **約400～500億円のM & A 投資枠を準備**

投資有価証券：大型のM&A案件の実施に際しては、売却を検討する

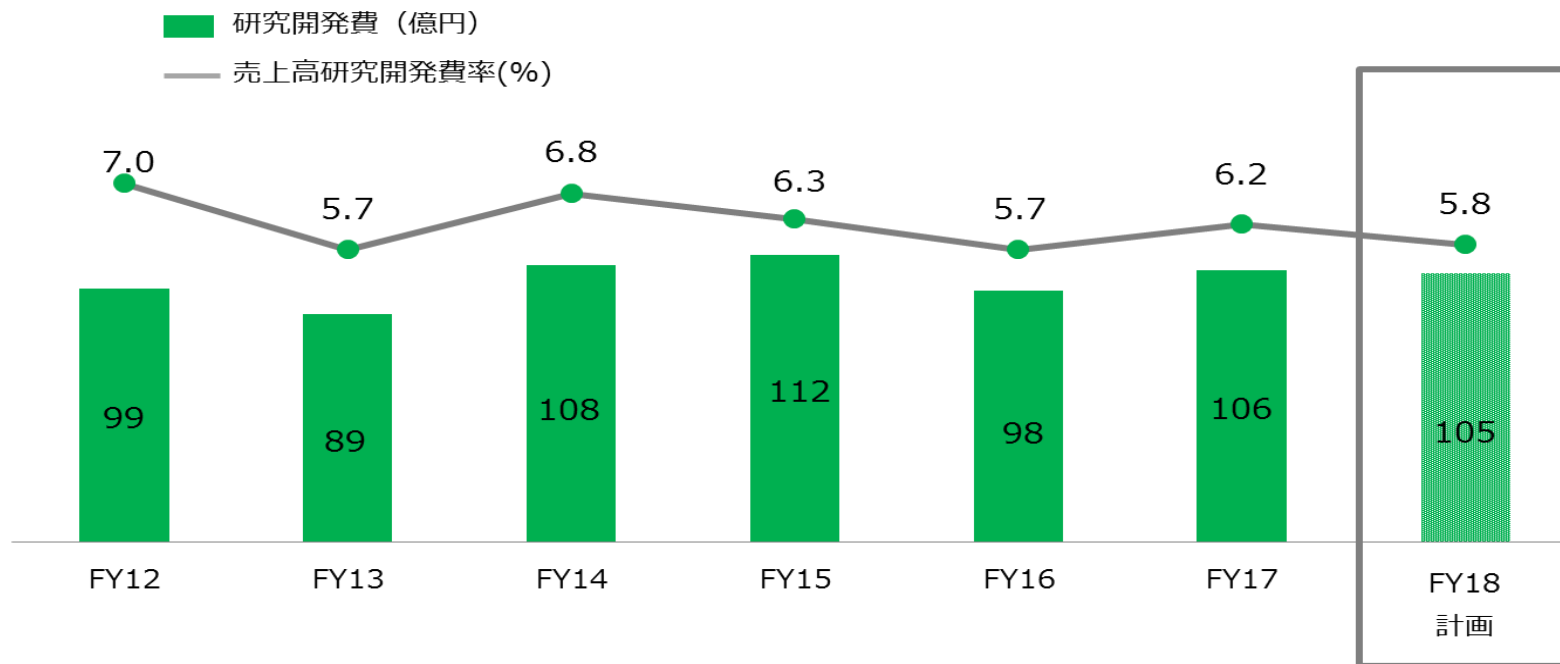


## ウシオのシナジー重視のM & A

新光源（固体光源）対応へのスピードアップに向けた買収  
既存技術・製品を活かす新規市場参入を加速させる買収  
ソリューション提案型へのビジネスモデル変革に向けたウシオにない技術・販売チャネル  
高付加価値製品開発を加速させる買収

## ウシオの高付加価値製品を支える研究開発費

既存の“光”技術の活用範囲を拡大し、  
持続的成長につながる研究開発活動を積極的に行う



## ウシオの研究開発投資

高付加価値製品投入に向けた開発活動  
産学官連携（共同研究）による新たな波長ニーズの探索  
固有技術の応用、発展による新規市場開拓  
強みである顧客ニーズに適合した製品開発

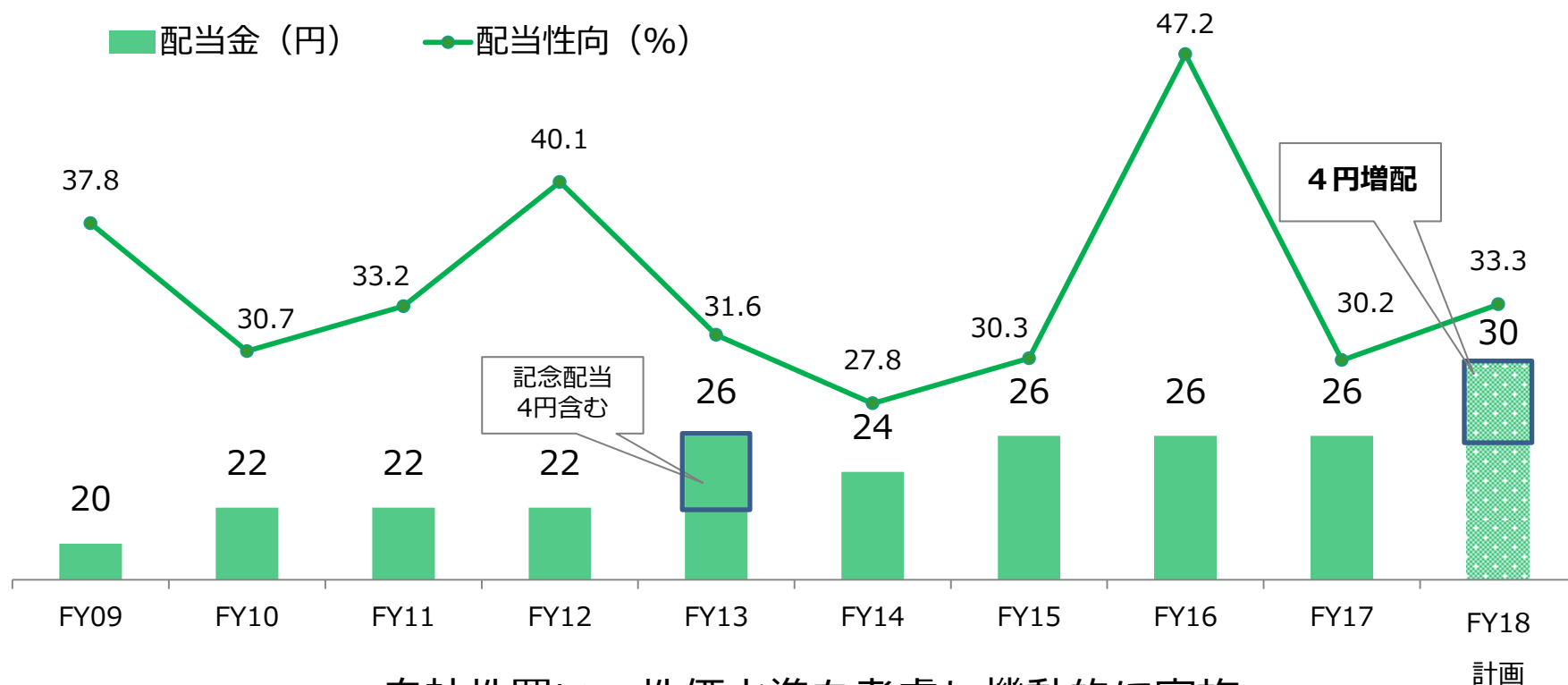
# 株主還元について

## 【方針】

### 安定的・継続的な利益還元

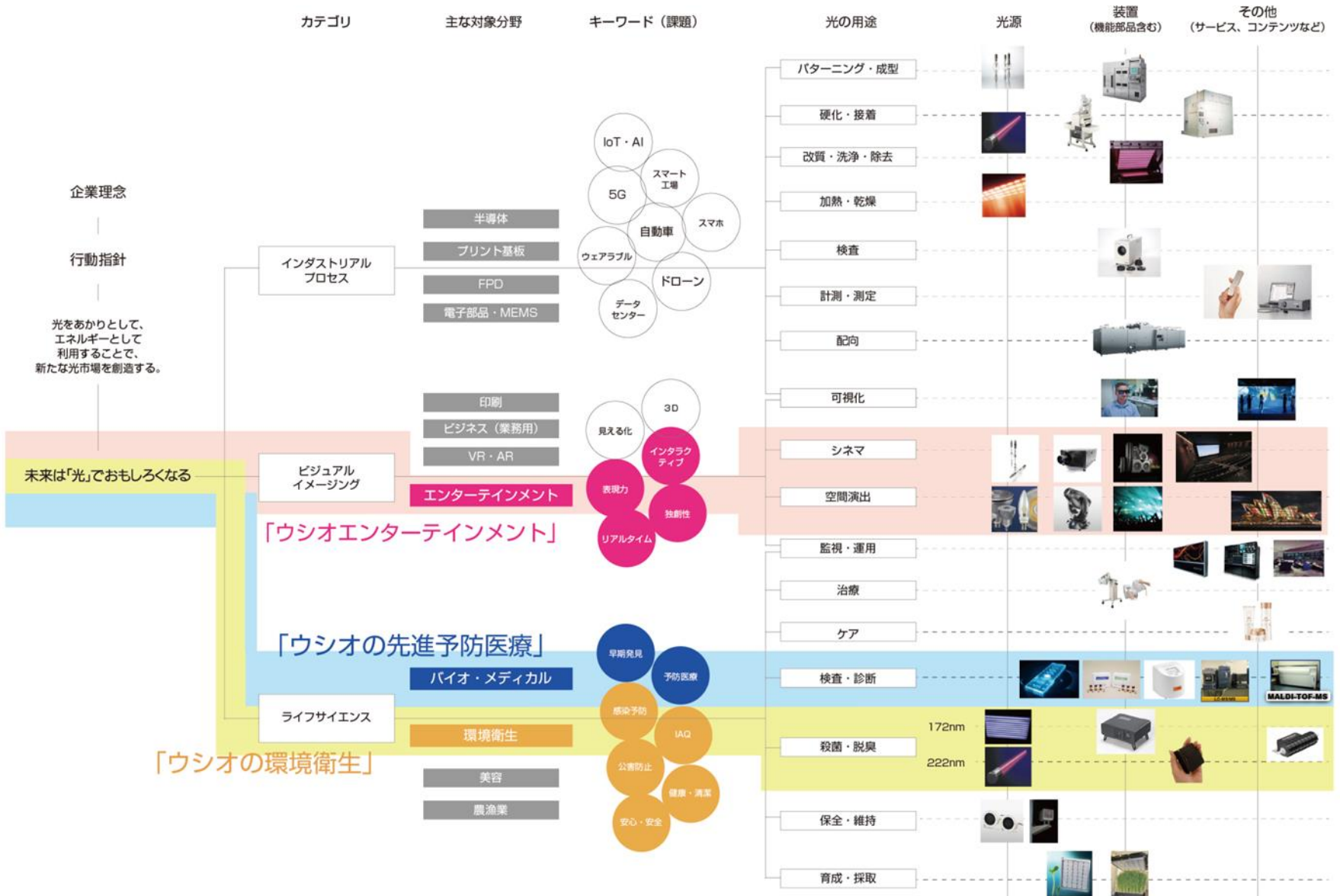
**配当額 (FY18計画) : 30円 (4円増配)**

今後の中長期の持続的な成長に必要な投資資金を考慮した上で  
株主各位への利益還元の更なる充実を図る



自社株買い：株価水準を考慮し機動的に実施

# 補足情報：ウシオの事業概略図



## 補足情報：中期経営計画（FY17～FY19）のセグメント別売上高

セグメント	サブセグメント					3年間の増減 (FY19-FY16)		
		1年目	2年目	3年目	億円	%	CAGR(%)	
		FY16 (実績)	FY17 (実績)	FY18 (計画)				FY19 (計画)
装置事業	映像装置	670	627	600	650	▲ 20	▲ 3	▲ 1
	光学装置	285	330	375	395	+110	+39	+11
	照明装置他	20	17	15	15	▲ 5	▲ 25	▲ 9
	小計	<b>976</b>	<b>976</b>	<b>990</b>	<b>1,060</b>	<b>+84</b>	<b>+9</b>	<b>+3</b>
光源事業	放電ランプ (固体光源含む)	597	599	645	670	+73	+12	+4
	ハロゲンランプ	121	124	125	130	+9	+7	+2
	小計	<b>719</b>	<b>724</b>	<b>770</b>	<b>800</b>	<b>+81</b>	<b>+11</b>	<b>+4</b>
その他	産業機械他	32	34	40	40	+8	+25	+8
<b>合計</b>		<b>1,728</b>	<b>1,734</b>	<b>1,800</b>	<b>1,900</b>	<b>+172</b>	<b>+10</b>	<b>+3</b>
全社	営業利益 (億円)	<b>86</b>	<b>101</b>	<b>125</b>	<b>150</b>	<b>+64</b>	<b>+74</b>	<b>+20</b>
	営業利益率 (%)	5.0	5.9	6.9	7.9	+2.9P	-	-



- 
- I. 2017年度 通期業績概況
  - II. 2018年度 業績予想
  - III. 中期経営計画
  - IV. 参考資料**

## 参考：四半期推移《損益》

単位：億円	FY16	FY17				FY17 4Q	FY16 4Q	FY17 4Q - 3Q	
	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	増減	%	増減	%
売上高	478	417	434	445	436	▲41	▲8.7	▲8	▲2.0
営業利益	28	28	28	29	15	▲13	▲45.5	▲13	▲46.9
営業利益率（%）	6.0	6.7	6.5	6.6	3.6	▲2.4P	-	▲3.0P	-
経常利益	29	39	30	37	12	▲17	▲58.0	▲25	▲67.6
親会社株主に帰属する 当期純利益	9	65	17	2	24	+15	+161.5	+22	-
EPS（円）	7.48	51.32	13.62	1.63	19.55	▲12.1	▲161.5	▲17.9	-
為替レート（円）									
USD	114	111	111	113	110	▲4	-	▲2	-
EUR	121	122	130	132	134	+13	-	+2	-

## 参考：四半期推移《セグメント別》

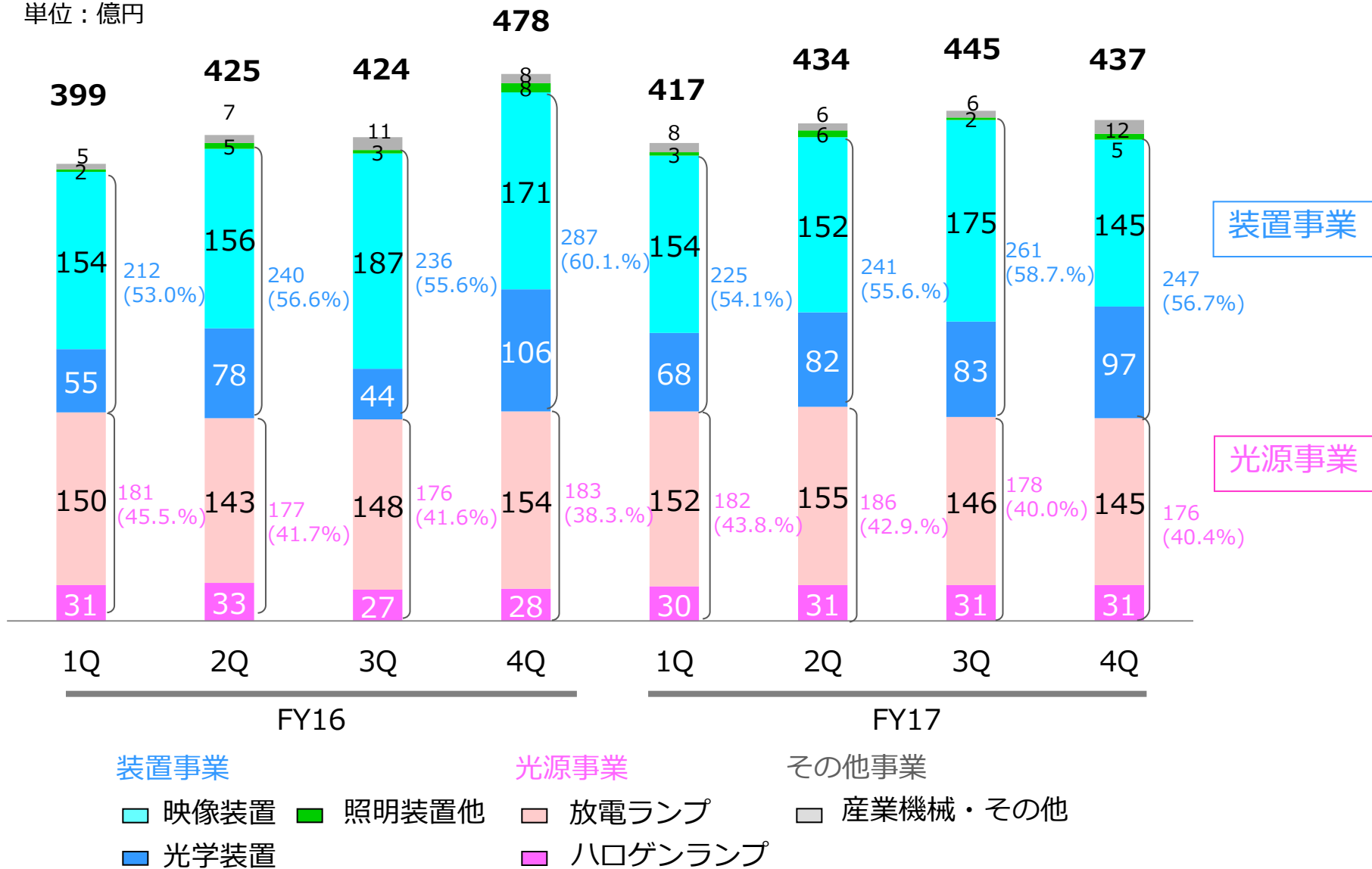
単位：億円	FY16	FY17				FY17	FY16	FY17	FY17	3Q
	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	4Q	4Q	4Q	増減	
						増減	%	増減	%	
<b>装置事業</b>										
売上高	287	225	241	261	247	▲39	▲13.8	▲13	▲5.3	
営業利益	1	0	▲0	4	▲9	▲10	▲857.9	▲13	▲327.5	
営業利益率 (%)	0.4	0.2	▲0.1	1.6	▲3.7	▲4.2P	-	▲5.3P	-	
<b>光源事業</b>										
売上高	183	182	186	178	176	▲6	▲3.6	▲1	▲1.0	
営業利益	26	26	28	24	24	▲2	▲7.9	▲0	▲2.5	
営業利益率 (%)	14.4	14.4	15.3	14.0	13.8	▲0.6P	-	▲0.2P	-	
<b>その他</b>										
売上高	8	8	6	6	12	+4	+59.4	+6	+109.8	
営業利益	0	0	0	0	0	▲0	▲76.3	▲0	▲71.0	
営業利益率 (%)	5.0	7.6	3.2	5.4	0.7	▲4.3	-	▲4.7P	-	

## 参考：営業外収支、特別利益／特別損失

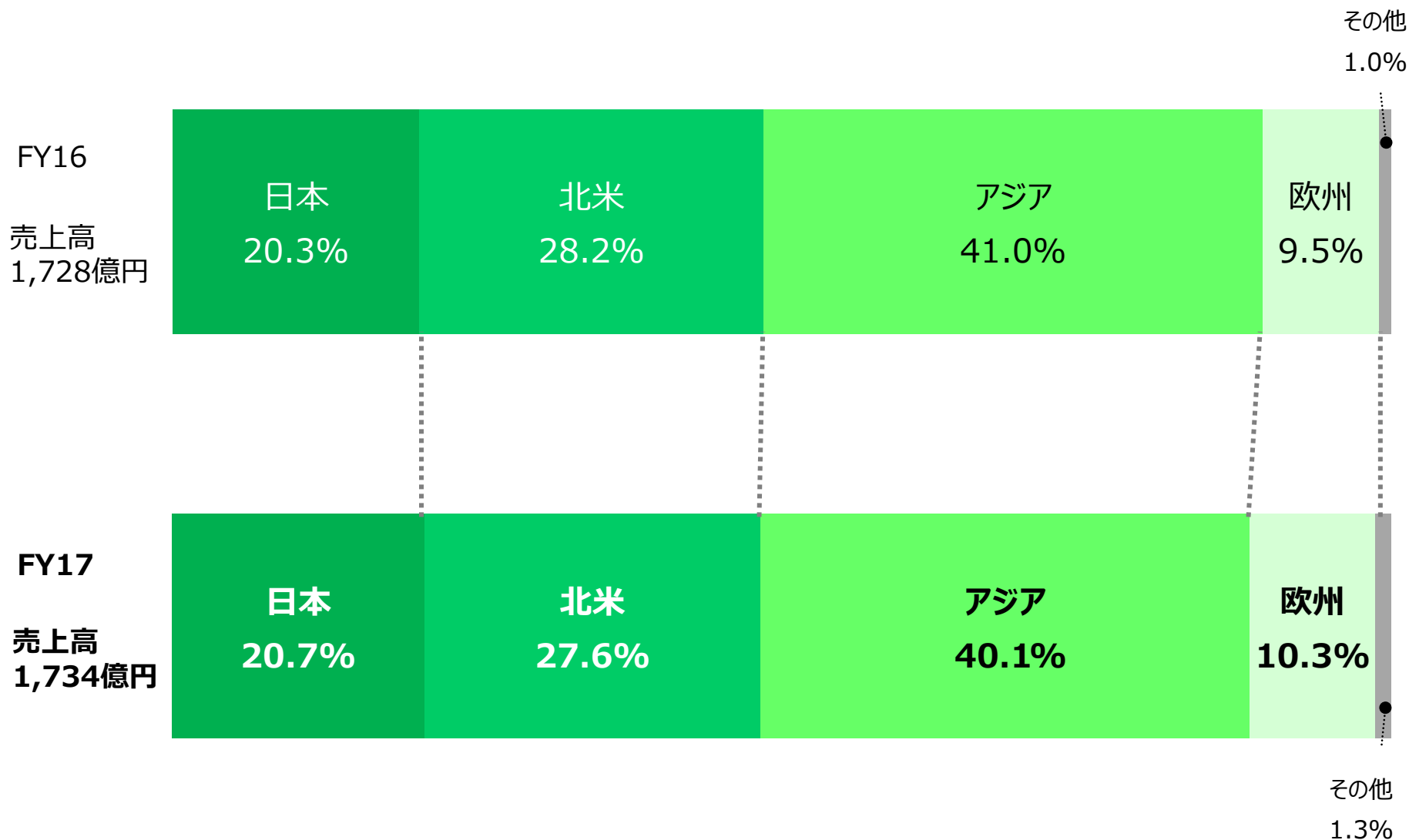
単位：億円	FY16	FY17	前年 同期比	単位：億円	FY16	FY17	前年 同期比
営業外収益	34	36	+1	特別利益	32	124	+92
受取利息	8	13	+4	固定資産売却益	4	3	▲0
受取配当金	13	14	+1	投資有価証券 売却益	27	59	+32
売買目的有価 証券運用益	4	3	▲0	厚生年金基金 代行返上益	-	60	+60
特定金銭信託 運用益	3	1	▲2	特別損失	26	30	+3
その他	4	4	▲0	固定資産除却損	0	3	+2
営業外費用	10	17	+6	移転費用	1	0	▲1
支払利息	3	6	+2	特別退職金	0	3	+3
為替差損	6	9	+2	事業構造改善費用	20	0	▲20
その他	0	1	+0	減損損失	2	18	+16
営業外収支	23	18	▲5	関係会社株式売却損	-	1	+1
				その他	0	2	+1

# 参考：サブセグメント別売上高 《四半期比較》

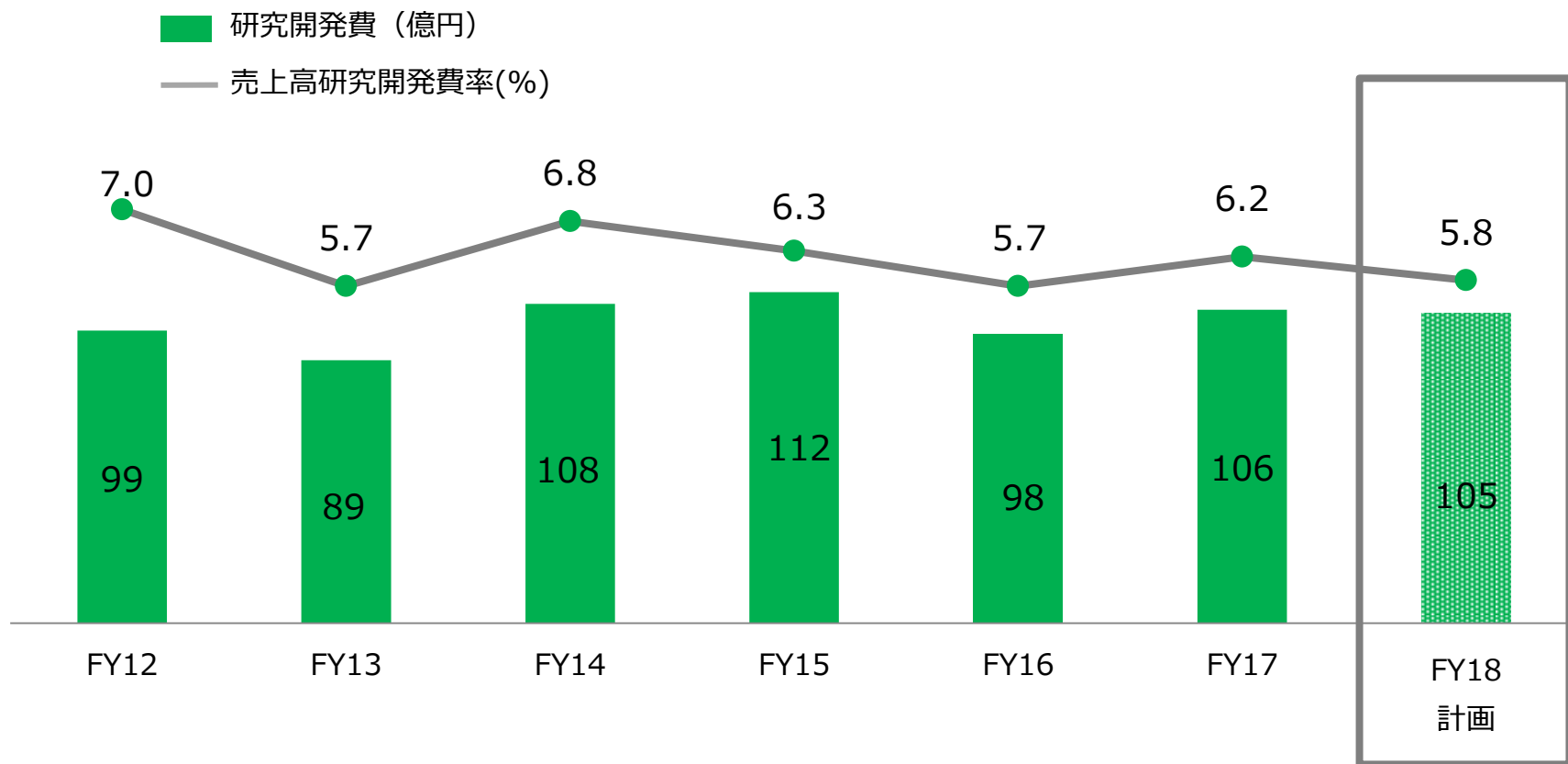
単位：億円



## 参考：地域別売上高比率



# 参考：研究開発費

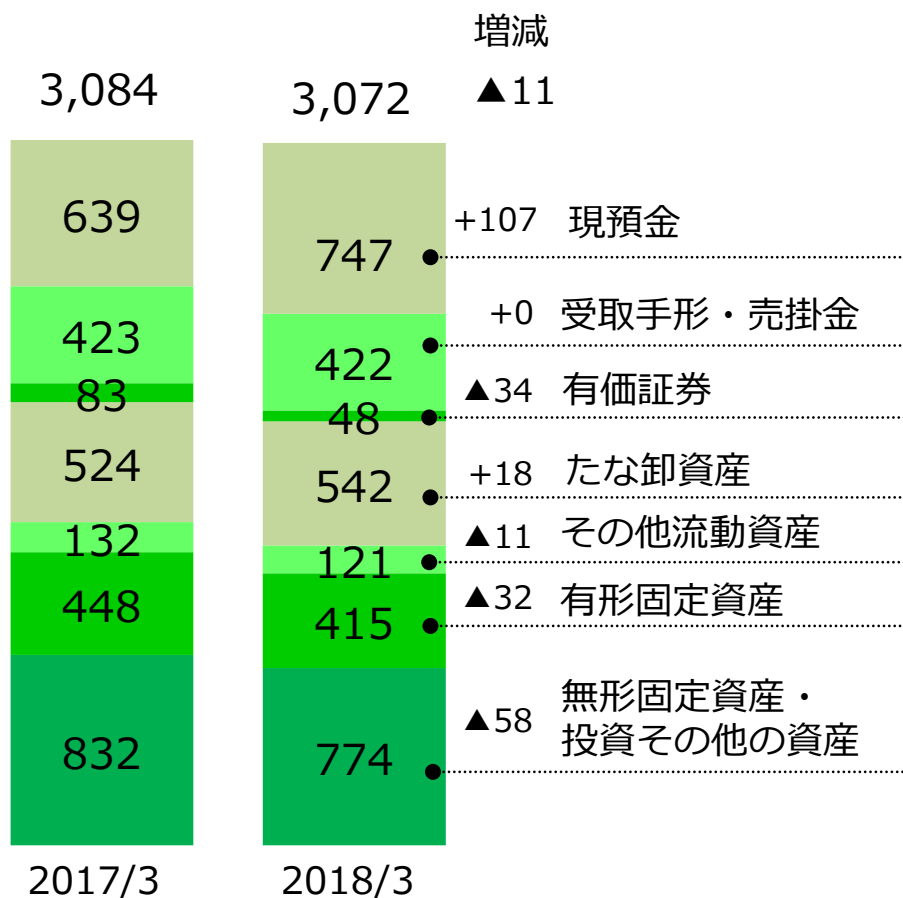


単位：億円

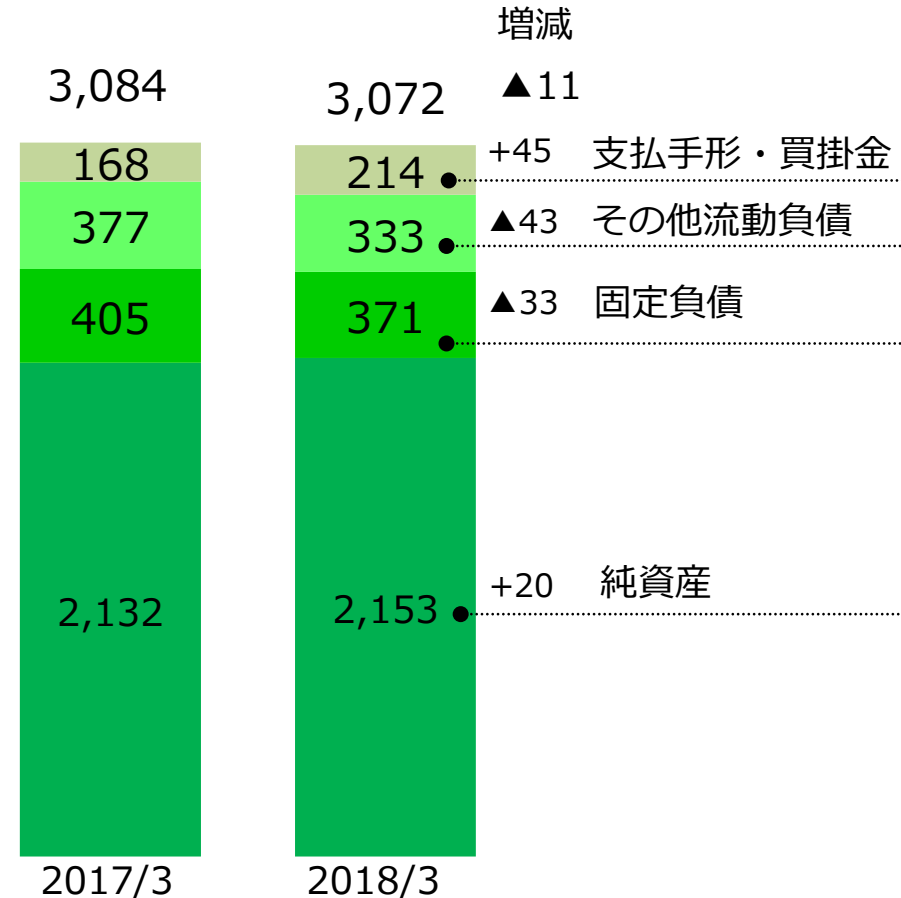
	FY16	FY17	前年同期比	
			増減	%
研究開発費	98	106	+ 8	+8.2
売上高研究開発費率(%)	5.7	6.2	+0.4P	-

# 参考：貸借対照表

## ◆ 資産 (億円)



## ◆ 負債・純資産 (億円)



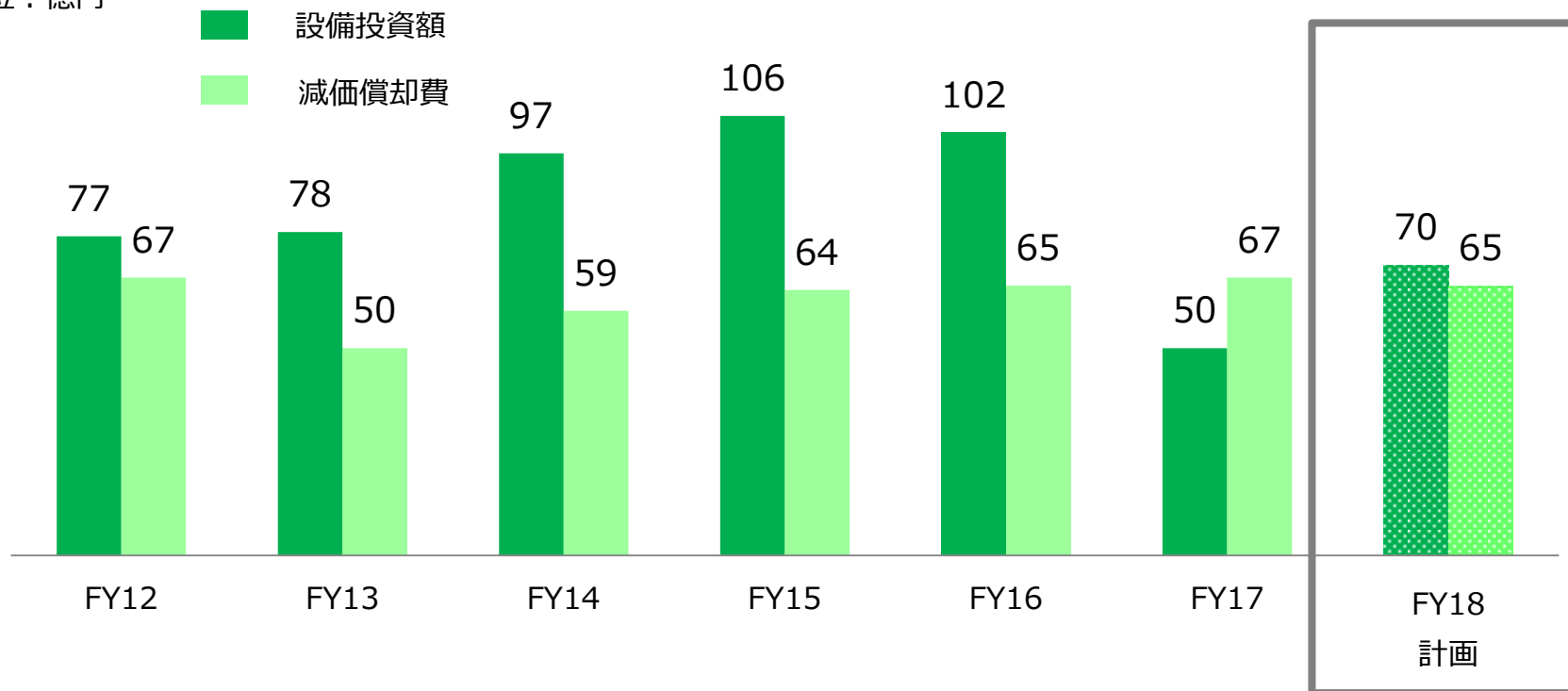
●回転月数 (ヶ月)	2017/3	2018/3
売上債権	2.8	2.9
たな卸資産	3.8	3.7

●自己資本比率 (%)	2017/3	2018/3
	68.9	70.0



## 参考：設備投資額・減価償却費

単位：億円



単位：億円

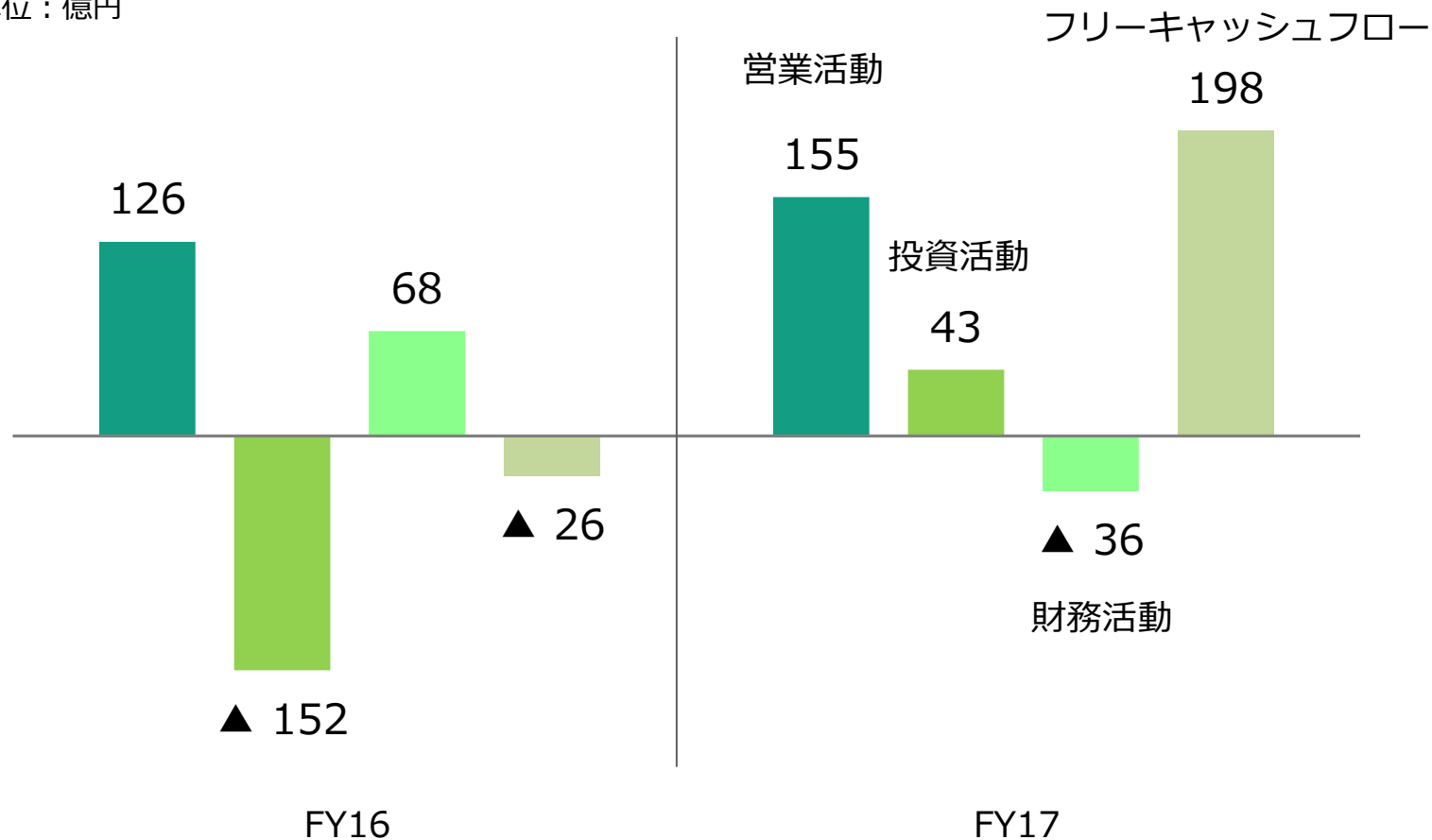
	FY16	FY17	前年同期比	
			増減	%
設備投資額	102	<b>50</b>	▲51	▲50.7
減価償却費	65	<b>67</b>	+2	+3.1

注1. 設備投資額は「有形固定資産」+「無形固定資産」。ただし、「のれん」は除く。

注2. 設備投資額に含まれない「のれん」増加額 FY16：4億円、FY17：2億円

# 参考：キャッシュフロー

単位：億円



期首現金残高	478
期末現金残高	509

期首現金残高	509
期末現金残高	660

# 参考：ウシオグループ プロジェクター光源別特徴

	ランププロジェクター		レーザープロジェクター		
光源	超高圧 UVランプ	クセノン ランプ	蛍光体 レーザー	RGBレーザー (CP-RGBシリーズ)	RGB レーザー
クリスティ ラインナップ	 各種プロジェクター (3LCD/1DLP/3 DLP)	 CPシリーズ Roadie 他	 Crimson シリーズ 2018年4月リリース	 CP4325-RGB * 2018年3月リリース 1. CP2320-RGB 2. CP2315-RGB 3. CP4335-RGB 2018年後半リリース	 ノン ドルビー プロジェクター (CP42LH EWD /6P) ドルビー ビジョン プロジェクター (E3LH)
明るさ (lm)	<30,000	<45,000	<30,000	<23,000 <35,000	<60,000
用途	■ 一般映像 (オフィス、ホームシア ター、教室、ホール、 イベント会場など)	■ シネマ ■ 一般映像 (ホール、イベント会場 など)	■ ノンシネマ ■ 一般映像 (ホール、イベント会 場など)	■ シネマ	■ プレミアムシネマ (ドルビーシネマなど) ■ 一般映像 (産業用VR、テーマパークの アトラクションなど)
本体価格	低	中	中	中-高	高
本体寿命	中**	中-長**	中	長	長
色	△○	○	△	◎	◎

\* 業界初、最軽量・ハイクオリティのRGBレーザープロジェクター

\*\* ランプ交換が必要。 ランププロジェクターの中で、一般映像用の水銀ランプ、シネマ用のクセノンランプは、  
蛍光体レーザープロジェクターよりも寿命が長いことがあります。

## アドテックエンジニアリングがビアメカニクスの露光装置事業を買収

当社の100%子会社である株式会社アドテックエンジニアリング(以下ADT)は、2018年1月19日付で、ビアメカニクス株式会社(本社：神奈川県 代表取締役社長：清水 秀晃 以下ビアメカニクス)との間で吸収分割契約を締結いたしました。

ADTは、プリント基板製造で使用する「露光装置」に注力しており、全自動コンタクト露光装置から最先端のデジタル露光装置まで、幅広い製品ラインナップでお客様の問題を解決するソリューション企業を目指して事業展開しています。

一方ビアメカニクスは、1968年の設立以来、時代のニーズに応じた種々の産業機械を開発・製造しており、露光機事業については、先端パッケージ分野や半導体後工程用を中心に事業展開しています。

近年、露光装置を取り巻く環境は、多様なニーズに対応する製品ラインナップの充実と、プリント基板やパッケージ基板だけではなく、半導体後工程も含めた多岐にわたる回路形成技術の進化に即応した装置開発、さらにはお客様の安定操業を支援するサービス体制強化が重要な経営課題となっています。

ADTは、今回の買収により、お客様に対して、より優れた製品と充実したサービスを提供することで事業のさらなる発展を目指してまいります。



## 宮城県女川町の中学生プロジェクトマッピング 高輝度プロジェクターや演出照明機器などを機材協力

－中学生がJR女川駅舎を「映像と音楽と照明」で演出、全国からの震災復興支援に感謝を－

当社の100%子会社であるウシオエンターテインメントホールディングス株式会社(以下UEH)は、コラボ・スクール女川向学館（運営：認定NPO法人カタリバ、所在地：宮城県女川町）の中学生が制作・実施するプロジェクトマッピングにおいて、高輝度プロジェクターや照明演出機器などの機材協力を行いました。

UEHは、同じくウシオグループであるクリスティ・デジタル・システムズ社製の高輝度プロジェクターや演出照明機器などの機材協力と技術サポートを通して、東日本大震災からの復興を目指す女川の新しい町づくりを応援します。



震災後の様子



JR女川駅前 2018年3月17日

イベントダイジェスト映像



映像作品



## 参考：用語集

AI	Artificial Intelligence	人工知能
AR	Augmented Reality	拡張現実
COF	Chip On Film	チップオンフィルム
DCP	Digital Cinema Projector	デジタルシネマプロジェクター
FA	Factory Automation	ファクトリーオートメーション
FPD	Flat Panel Display	フラット・パネル・ディスプレイ
IAQ	Indoor Air Quality	空気質
IoT	Internet of Things	モノのインターネット
M-SAP	Modified Semi Additive Process	エムサップ
OA	Office Automation	オフィスオートメーション
OLED	Organic Light Emitting Diode	有機EL
RGB	Red Green Blue	赤 緑 青
UV	Ultraviolet	紫外
VR	Virtual Reality	人工現実感/仮想現実

# USHIO

本資料に関するお問い合わせ先  
ウシオ電機（株）経営企画部  
(03) 5657-1007  
[ir@ushio.co.jp](mailto:ir@ushio.co.jp)  
<http://www.ushio.co.jp/jp/>